

# 福島県 ホープツーリズム 総合ガイドブック

Fukushima Hope Tourism

ver.

07

世界で唯一、  
複合災害を経験した  
福島でしか得られない  
新しい学びのスタイル



震災遺構 浪江町立請戸小学校

【 知事挨拶 】

# ふくしまから、 持続可能な未来を探究・創造する

～想像力を働かせて、もっと深く、前向きに。一緒に学び合う新しいスタディツアーへ～

東日本大震災以来、全国の皆様からたくさんの励ましや温かいご支援をいただいておりますことに改めて心から感謝申し上げます。

福島県は世界で唯一、地震、津波、原子力災害、そして風評被害を一度に経験し、今もなお複合的かつ多様な課題がある一方で、復興を強く願う、困難な状況に屈することなく未来を見据え、挑戦を続けている人々が大勢います。そんな福島だからこそできる“新しい学び”があります。

福島県では、福島のありのままの姿と復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話を通して、震災・原子力災害の教訓、復興、そしてこの逆境からどうすれば脱却できるのかを考えることで、自分自身を成長させる学びの旅「ホープツーリズム」を推進しております。

本ガイドブックでは、教育旅行や、企業等の人材育成などのニーズに応じたツアー内容や学びの効果等について紹介しておりますので、ぜひご覧いただき、福島をフィールドとした「ホープツーリズム」の実施をご検討いただきますようお願いいたします。



福島県知事 内堀 雅雄

【 表紙の写真 】

“全員が無事避難することができた奇跡の学校”

## 震災遺構 浪江町立請戸小学校

→詳しくはP13へ



東日本大震災で甚大な被害を受けた浪江町立請戸小学校。しかし、児童・教職員全員が無事に避難することができた奇跡の学校として、その教訓を未来へ伝えていきます。2021年から福島県初の震災遺構として一般公開され、防災意識を深める場となっています。

【 参加者の声 】

教育旅行：教員

生徒がアクティブラーナーとなり、主体的な学びができた。ホープツーリズムでは、問題を自分事として捉え、対話的な解決方法を生む力や学びに向かう力を養うことができる。  
関東エリア公立高校

企業や組織の人材育成研修

福島は日本の課題の縮図。福島の課題を解決することは、復興のためのみならず、普遍的な社会課題を克服する可能性を秘めていることに気づいた。  
国家公務員 内定者

教育旅行：生徒

現地に来ることで、見えることや感覚が変わる。風評被害払拭には、訪れて感じ、考えることが大切だと思う。まずは訪れること、それが一番必要。  
関西エリア私立高校

留学生・インパウンド

抽象的だった福島のイメージが、「あの町である人が言っていたように」と、ツアーを通して具体的にになっていくのを感じた。  
東北エリアの大学 留学生

企業や組織の人材育成研修

現実を直視して、そこからの解決策を真剣に考えて解を見出す。その姿勢が福島にはある。日本の企業には、やると決めたらやり遂げる力があると実感した。  
自動車部品メーカー 社員

【 実施団体・ツアー団体一例 】

学校

- 埼玉県 ●埼玉県立不動岡高等学校
- 千葉県 ●千葉県立船橋高等学校  
●市川中学校・高等学校  
●千葉商科大学
- 東京都 ●筑波大学附属駒場中学校・高等学校  
●お茶の水女子大学附属高等学校  
●東京都立豊島高等学校  
●駒場東邦中学校・高等学校  
●明治大学付属中野八王子高等学校
- 神奈川県 ●神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校  
●鎌倉学園中学校・高等学校  
●逗子開成中学校・高等学校
- 滋賀県 ●滋賀県立河瀬中学校・高等学校
- 大阪府 ●明星高等学校
- 兵庫県 ●灘中学校・高等学校
- 広島県 ●広島学院中学校・高等学校

企業 (五十音順)

- ANAホールディングス株式会社 ほかグループ企業
- 株式会社デンソー
- 株式会社本田技術研究所 ほかグループ企業
- 日産自動車株式会社 新人研修
- パナソニックホールディングス株式会社 ほかグループ企業
- 読売新聞東京本社 新人記者研修

行政機関・ツアー団体

- 人事院公務員研修所 初任行政研修
- 経済産業省 福島現地研修
- 環境省「福島、その先の環境へ。」
- 復興庁「東日本大震災の風評払拭に向けた現地視察ツアー」
- 福島県庁 ふくしま復興現地研修
- 一般社団法人日本経済団体連合会 加盟企業
- J-Jeha日本電熱機工業協同組合
- 米沢エネルギー懇談会
- 東京都「東京国際ユース(U-14)サッカー大会」

【 目次 】

知事挨拶	02	【 聞く 】	
参加者の声、実施団体・ツアー団体一例	03	復興に向け果敢にチャレンジする人々	22
フィールドマップ	04	学校交流	25
ホープツーリズムとは	06	【 モデルコース 】	
【 考える 】		スタンダードコース	26
フィールドパートナー (FP)	08	オーダーメイドコース	28
学びの流れ	10	ホープツーリズム公式アンバサダー	30
【 見る 】		インフォメーション	30
施設	12		
体験	21		

●本誌掲載データは、2025年1月現在のものです。●内容は予告なく変更される場合もありますので事前にご確認ください。●掲載の記事・写真・図版・イラスト等の無断転載を禁じます。また、写真はすべてイメージであり実物とは異なる場合があります。●掲載の地図や縮尺、所要時間などは、おおよその目安となるものです。●この冊子に掲載された内容により生じたトラブルや損害などについては、補償いたしかねますので、予めご了承願います。

# 多彩な発見と出会いのフィールド『ふくしま』

北海道・岩手県に次ぐ全国第3位の面積を持つ福島県。その広大な領域は、地形・気候・交通・歴史などの面から、太平洋と阿武隈高地に挟まれた「浜通り」、阿武隈高地と奥羽山脈に挟まれた「中通り」、奥羽山脈と越後山脈に挟まれた「会津」の3地域に分けられ、それぞれの魅力を活かして発展してきました。

津波と原子力災害の影響を受けた浜通りを中心に、県内各地の多彩な観光・学習コンテンツを組み合わせたプログラムの実現が可能です。



## 主要都市からのアクセス

- 東京から**
- 電車利用
    - 東北新幹線 東京駅～郡山駅(約1時間20分)
    - 常磐線(特急ひたち) 東京駅～いわき駅(約2時間30分)
- 札幌から**
- 飛行機利用
    - 新千歳空港～福島空港(約1時間20分)
- 函館から**
- 電車利用
    - 北海道新幹線 新函館北斗駅～仙台駅(約2時間40分)
    - 仙台駅～福島駅(約20分)
- 大阪から**
- 飛行機利用
    - 伊丹空港～福島空港(約1時間10分)
  - 電車利用
    - 東海道新幹線+東北新幹線 新大阪駅～郡山駅(約4時間5分)
- 福岡から**
- 飛行機利用
    - 福岡空港～伊丹空港～福島空港(約3時間)
    - 福岡空港～羽田空港(約1時間30分)
    - 羽田から電車もしくはバスを利用し福島県へ
    - 福岡空港～仙台空港(約2時間15分)

## 掲載施設一覧

- 東日本大震災・原子力災害伝承館
- 双葉町産業交流センター
- JR双葉駅周辺
- 震災遺構 浪江町立請戸小学校
- 浪江町営大平山霊園
- Jヴィレッジ
- 天神岬スポーツ公園
- トロピカル・フルーツミュージアム
- 日本原子力研究開発機構 樹木遠隔技術開発センター
- 株式会社福島しろはとファーム
- みんなの交流館 ならはCANvas
- とみおかアーカイブ・ミュージアム
- 富岡復興メカソーラー SAKURA
- 東京電力 廃炉資料館
- 夜の森地区
- 福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島
- 福島県農業総合センター
- 産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所
- 中間貯蔵事業情報センター
- 中間貯蔵施設
- 国道6号
- 特定廃棄物立情報館リブルンふくしま
- 福島ロボットテストフィールド
- 浪江町棚塩産業団地(海光の丘)
- ふくしま hidro サプライ水素ステーション ナミエナジー
- 浅野燃糸 フタバスーパーゼロミル
- 株式会社ライスレジン
- 紅梅夢ファーム
- ネクサスファームおおくま
- ホップジャパン
- かわうちワイナリー
- 相馬市伝承鎮魂祈念館・慰霊碑
- いわき震災伝承みらい館
- 松川浦ガイドの会
- 大塚相馬焼協同組合
- とみおかワイナリー
- ワンダーファーム



それは明日の学びの原動力。  
 福島で感じる希望(ホープ)。

「ホープツーリズムとは」

震災・原子力災害の被災地域をフィールドとした新しいスタディツアー

世界で類を見ない「**複合災害(地震・津波、原子力災害、風評被害)**」を経験した唯一の場所、福島県。事実、教訓、復興への挑戦から得た学びを私たちはあえて「**震災・防災学習**」と呼ぶことはしません。ホープツーリズムは、複合災害の教訓等から「**持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する**」福島オンリーワンの新しいスタディツアーです。

地震・津波、原子力災害、風評被害という世界で類を見ない複合災害を経験した福島の「ありのままの姿(光と影)」と、さまざまな分野で「復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話」を通じたインプット。震災・原子力災害を「福島だけのローカルな問題(他人事)」と限定せず、教訓等を「持続可能な社会・地域づくりの実現、日常生活、自分自身の行動変容等」の“これからの未来”に視野を広げ、自分事としてどう活かすのか探究・創造するアウトプット。この一連のプログラムにより、アクティブラーニングの手法を用いた「主体的・対話的で深い学び」を実現します。福島を学ぶことで感じる希望は、参加者一人ひとりに、これからの成長につながる「学びの種」をもたらし、「明日の学びに向かう原動力」を育みます。



..... ホープツーリズム 3つの特徴 .....

見る	聞く	考える
<p><b>施設見学、フィールドワークからありのままの姿を体感</b></p> <p>復興に向け確かに歩み出している地域、持続可能な未来を担う新しい取り組みが始まっています。一方、長年の避難指示による地域への影響を感じる街並み、避難指示が継続中の地域……。報道だけでは伝わらない「光と影」。その光景が、福島の「今」です。</p>	<p><b>復興に向け果敢にチャレンジする人々との“対話”</b></p> <p>地震・津波、原子力災害、風評被害……。未曾有の困難の中で、それでもなお復興に向け果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。そうした人々との対話から、多くの刺激や気づきを得ることができます。</p>	<p><b>震災・原子力災害の教訓を未来(社会・地域・日常・自分自身)にどう活かすか</b></p> <p>まとめのワークショップでは、震災・原子力災害により顕在化したさまざまな社会課題(人口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等)は「福島だけの問題」ではなく「日本社会や地域が抱え、解決すべき問題」という視点に立ち、自分たちがどのような未来を創っていきたいかなどについて議論します。</p>

【考える】

# フィールドパートナー (FP)

フィールドパートナーは、ツアー中のアテンド、ファシリテートを担当します。1日ごとの振り返り(リフレクション)や、最終日のワークショップなどを通し、中立・客観的な立場から、参加者とともに、学びの成果へと導く総合案内人です。

現地で活躍する総合案内人

探究心・好奇心に寄り添う



## フィールドパートナー (FP) の担う役割

### インプット 中立・客観的立場

- バス車内や、フィールドワークの案内にて、震災・原子力災害、復興に関する情報の伝達
- 施設等の見学後、現地の人々との対話後の情報整理、補足説明
  - ▶ 論点の明確化、多様な視点への展開
- 随所の問い立て・介入
  - ▶ 参加者の探究心や学びに向かう力を引き出す

### アウトプット 振り返り・ワークショップの企画・運営

FP 導く



感じる想いは原動力へ

この地域で



やまぐち ゆうじ  
一般社団法人ふくしまリアリ 代表理事 **山口 祐次 さん**

私自身、被災した住民の一人です。避難先での生活再建を決め、震災と向き合うことが辛い時期もありました。だからこそ「この教訓は必ず活かさなければならない」という強い思いの中、自分の役割に気づき、フィールドパートナーを担当することになりました。ツアーでは「学びの空間をつくりあげる」ことが大切です。何のための学習なのか、見て・聞いて・何を感じ考えたか、どんな変化が生まれたか……。体験から得た想いは強い原動力になります。参加者一人ひとりがしっかりと自分のテーマを見つげ行動につなげるよう取り組んでいます。

#### プロフィール

長年、設備機器メーカーにおいて事業管理全般の責任者として勤務。震災で福島県の事業所が閉鎖となったため退職し、オフィス・フリエイト福島を設立。各種スキルアップ研修や地域企業の経営サポート、地域づくりの業務にあたる。また2022年に一般社団法人ふくしまリアリを設立し、震災とその歩みの伝承、魅力溢れる地域づくりのための効果的なサポートに挑戦している。

あの日までとあの日から

伝え続ける使命感



こいずみ みく  
一般社団法人ふたばプロジェクト 職員 **小泉 良空 さん**

中学生の時に、震災と原発事故、それに伴う避難を経験しました。以後、この地域がネガティブな意味で注目されることが増え、「このまま終わらせたくはない」という想いが強まりました。地元が大好き!その気持ちから、この地域に帰ってきてフィールドパートナーを始めました。ここで生まれ育った自分だから伝えられる、あの日までの町の風景。そしていま、まちづくりの現場に立つ自分だから伝えられる、あの日からの町の動き。中立・客観的立場で参加者に伴走しながら、この地域の状況や事象の賛否ではなく、事実を伝えることを大切にしています。

#### プロフィール

福島県大熊町出身。2021年5月から双葉町のまちづくり会社であるふたばプロジェクトに勤務。伝承事業や情報発信を主に担当している。双葉郡で起こった出来事の実況や現状・少しずつ前進していく姿を、この地域で生まれ育った一人としての視点も持ちつつ伝えている。

丁寧な物事に向き合う

参加者と共に



かんの たかあき  
一般社団法人まちづくりなみえ 事務局次長 **菅野 孝明 さん**

フィールドパートナーとして、「事実を伝える」・「共に考える時間」・「考え続ける意識の醸成」を大切にしています。それを実現するために、相互理解につながる対話の場をつくるのが、ホープツーリズムのフィールドパートナーの重要な役割です。参加者は真剣な眼差しで話を聞き、感じたこと・考えたことを率直に伝えてくれます。実際に「来て、見て、感じて、共に考える」ことが、福島だけではなく、自分の地域や社会全体の未来につながります。「福島から学ぶ」場をつくり続けます。そして、私たちは参加者と共に学びに向き合う存在だと思っています。

#### プロフィール

建設コンサルタント、進学準備教育企業を経て、2012年にNPO法人ETICの「右腕プログラム」浪江町復興支援コーディネーターに採用。被災地復興、まちづくり計画作成・調整支援、住民との合意形成支援などに従事。現在は一般社団法人まちづくりなみえの事務局次長として、避難等による人口の大幅減からの新たなまちづくりに挑戦している。

## 【参加者の声】

### 教育旅行：生徒

施設を見て回るだけでなくその施設が今の状況になった理由や、震災前はどうかだったのか地域の現状などを知ることができて有意義だった。 関東エリア私立高校

### 教育旅行：教員

客観性を保ちながらも、各説明を心を込めて語っていたため、感受性の強い生徒にとっても比較的負担なく震災と向き合うことができると感じた。 東海エリア私立高校

### 企業や組織の人材育成研修

情報に左右されず、現場現物、フィールドワークの大切さを確認できた。 電機メーカー 社員

【考える】

# 学びの流れ

ツアー行程中は毎日、夕食後に「振り返り(リフレクション)」の時間を設けるほか、ツアー最終日には「見る」「聞く」を通じて学んだことを深め、アウトプットするワークショップを実施します。このワークショップでは、震災・原子力災害により顕在化したさまざまな社会課題(人口減、高齢化、地域の衰退、エネルギー問題等)は「福島だけの問題」ではなく「日本社会やそれぞれの地域が抱え、解決すべき問題」とあるという視点に立ち議論します。



福島の問題を

「他人事」から「自分事」へ

## 持ち帰り・学びの成果

1

### “もやもや感”を持ち帰る

社会課題は簡単に解決しない(“もやもや感”を持ち帰る)が、「考え続けること(探究心・自分事化)」が重要。

2

### 多様性の尊重と対話の重要性を学ぶ

社会課題は立場や考え方によってさまざまな意見がある。「多様性の尊重と対話の重要性」AorBの二者択一ではなく、議論によって第三の道(C)が開かれることもある。

3

### 「見極め力」「判断力」を身につける

情報過多の社会における「物事の本質を見極める力」や「判断力(リテラシー)」を身につける。情報とどう向き合い選択・判断するか。自分で見聞きした生の情報の重要性。

4

### 変化や逆境への向き合い方を学ぶ

変化や逆境への向き合い方(人生観・生き方)。進路選択や生き方について希望と不安の狭間に立つ生徒の皆さんに、挑戦することの大切さを伝える。

福島で感じた希望。それは明日の学びの原動力 ▶▶ 参加者自身の成長へ!

## 事例

### お茶の水女子大学 附属高等学校

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)として教育プログラムにホープツーリズムを起用。「福島フィールドワーク」と題して、科学的根拠に基づいた価値判断・意思決定について継続的に学んでいます。



SSH指定校

※同校は2019~2028年度SSHに指定されています。

### 広島学院高等学校 原発廃炉学

高校2年が選択するゼミのひとつ「原発廃炉学」では、原発と廃炉に関わるさまざまな立場の人々と対話。ホープツーリズムを通して、体験的な学びから視野を広げるリーダー教育を目指しています。



リーダー教育

### 千葉商科大学 人間社会学部

社会問題が顕著化した震災・原子力災害後の福島県で、行政・企業・地域の人々が協働する様子を学習。アクティブラーニングの中で、多様性が尊重される社会を目指して、地域社会の課題を解決する力を育みます。



地域の課題解決

### パナソニック オペレーショナルエ クセレンス株式会社

震災・原子力災害の被害や復興状況を知るために、ホープツーリズムを実施。東京電力福島第一原子力発電所の視察やワークショップを通じて、福島での学びを自社、自分事化して捉え、社会人としての相互理解を深めます。



人材育成

### 事前学習

Pre-learning

ツアーに入る前に、震災・原子力災害の基礎知識(福島県の概要、被害状況、復旧状況の推移等)を解説。さらに学びの意識づけとして、ホープツーリズムの学びの特徴や多角的に物事を知る視点をレクチャーします。(オンラインでの事前学習にも対応。)



### 1日の振り返り(リフレクション)

reflection

毎日、夕食後に振り返り(リフレクション)を行い、疑問や気づきなどを共有することで情報を整理。スムーズに最終日のワークショップに臨むことができます。仲間同士でも、感じ方や考え方には違いがあり、語れば語るほど視野が広がります。



### ワークショップ

workshop

最終日にはまとめのワークショップを実施。ツアーでの学びを踏まえ、次世代を担う自分たちは、どんな未来を創っていききたいかについて、一人ひとりが社会を担う当事者として「自分事化」します。



# ① 東日本大震災・原子力災害伝承館

災害の全体像を学ぶ



正にホープツーリズムの学びの導入拠点。館内の映像や展示などの豊富な資料から、震災・原発事故直後から現在までの経過・復興のあゆみの全体像を学ぶことができます。

地震、津波、東京電力福島第一原子力発電所事故という、福島県が経験した世界でも類を見ない未曾有の複合災害の記録やそこから得られた教訓、そして復興の歩みを国内外に伝え、さらには将来へ引き継いでいくためにつくられた施設です。また、館内では被災体験を伝える語り部講話を1日4回実施しています。語り部は被災当時の年代や場所により被災体験が異なり、語る内容は津波や原発事故による避難などさまざまです。館内には資料や実際の記録映像などが多数展示され、震災・原発事故直後から現在までの経過や復興の歩みについて学ぶことができます。

a.震災と原子力災害の全容を映像で見た後、パネル展示を見ながらスロープを上る。 b.津波被害を受けた消防車を展示。 c.事故後の東京電力福島第一原子力発電所をジオラマで見ることができる。 d.自然に溶け込むような外観。屋上からは海側を一望できる。 福双葉町大字中野字高田39 園東日本大震災・原子力災害伝承館 0240-23-4402

双葉町の復興に向け、人と人をつなぐ、交流を育む拠点

## ② 双葉町産業交流センター (F-BICC)

双葉町の復興をけん引する中野地区の複合施設で、貸会議室や貸事務所のほか、フードコートや土産物店等の商業施設が入ります。町民や町内の企業関係者、周辺地域を訪れる人などが交流する拠点になること、さらには新たな価値を生み出していく場所になることを目指しています。



福双葉町大字中野字高田1-1 園双葉町産業交流センター 0240-23-7212

肌で感じる震災の爪痕と町の再生

## ③ JR双葉駅周辺

新たなまちづくりが始まっている双葉町の中心地。震災直後から手付かずの建物が残る一方で、希望にあふれるウォールアートが地域を彩ります。さらに、新しい施設の整備や既存建物の利活用などが進み、来るたびに変わる景色に、町の再生を肌で感じることができます。



福双葉町大字長塚字町西73番地4 園双葉町復興推進課 0240-33-0127

# ④ 震災遺構 浪江町立請戸小学校

爪痕の中に見いだす希望の光



海岸から約300mに立地。校舎は津波に呑まれ半壊しましたが、迅速な判断と避難により奇跡的に犠牲者は出ませんでした。今なお被災当時の様子がほぼそのまま残っています。

福島県では初となる震災遺構。震災の脅威や教訓とともに、地域の記憶や記録を後世に伝えるため、また、防災意識を高めることを目的として、被災当時の姿を保存しています。津波の被害が大きい1階の教室部分と体育館は限りなくそのままに近い状態で残され、校外や通路などからも見学できるよう整備されています。2階部分には震災の被害の大きさや原子力災害による避難の経緯などについて伝えるパネルのほか、訪れた人が黒板に書いた応援メッセージなどが保存されています。

a.展望台に据え付けられた時計の針は津波到達時間で止まっている。 b.放置された保健室の場所を示す札。 c.泥にまみれた資料も生々しく残されている。 d.卒業式の看板が掛かった体育館の内部。 福浪江町請戸持平56 園震災遺構浪江町立請戸小学校 0240-23-7041

津波被害の状況を一望できる高台の共同墓地

## ⑤ 浪江町営大平山霊園

海岸から約2km離れた高台に広がる共同墓地。請戸地区や太平洋を一望でき、津波の被害の甚大さを感じます。地震発生直後、請戸小学校の生徒が避難に向かった場所で、当時は畑が広がっていました。その後町民の希望により、震災によって亡くなったご遺族のためのお墓がつけられ、「大平山霊園」として整備されました。犠牲者への鎮魂、後世への訓戒のためにコミュニティ広場に建てられた慰霊碑とともに、震災の記憶を今に伝えていきます。

福浪江町請戸 園浪江町建設課 0240-34-2111 (代)



## 6 Jヴィレッジ



アスリートたちの聖地

復興の象徴



日本初のサッカー・ナショナルトレーニングセンターでサッカー日本代表の合宿も行われました。震災直後は原子力災害の対応拠点として使用されていましたが、復旧が進み、2018年7月に一部営業を再開。2019年4月には全面再開を果たしました。

浜通りに位置し、東北地方にありながら温暖な気候のため、冬季でも雪の影響をあまり受けることなく年間を通してサッカーを楽しめます。施設面積は、東京ドーム10個分となる49haにも及び、天然芝や人工芝のピッチはもちろんのこと、全天候型サッカー練習場、レストランやホテル、ホール、フィットネスジムなども備えた一大トレーニングセンターです。スポーツだけでなくさまざまな分野で多くの人が集い、復興のシンボルになることが期待されています。

a.施設面積は49ha。東京ドーム約10個分。b.全面が膜屋根に覆われ、気象条件に左右されず利用が可能な全天候型練習場。c.166席の階段教室スタイルのコンベンションホール。  
〒楢葉町山田岡美シ森8 園(株)Jヴィレッジ 0240-26-0111

太平洋を一望できる絶好のロケーション

### 7 天神岬スポーツ公園

キャンプ場、温泉、宿泊施設が一体となった、総合レジャーエリア。さらには広大な芝生広場やサイクリング場、ドッグランなども整備されており、こだけで泊まって、食べて、思いっきり遊ぶが叶います。海岸沿いの岬にあり、太平洋を見下ろすロケーションが自慢です。



〒楢葉町北田字上ノ原27-29 園(一財)楢葉町振興公社 0240-25-3113

町の新たな特産品 熱帯フルーツを開発

### 8 トロピカル・フルーツミュージアム

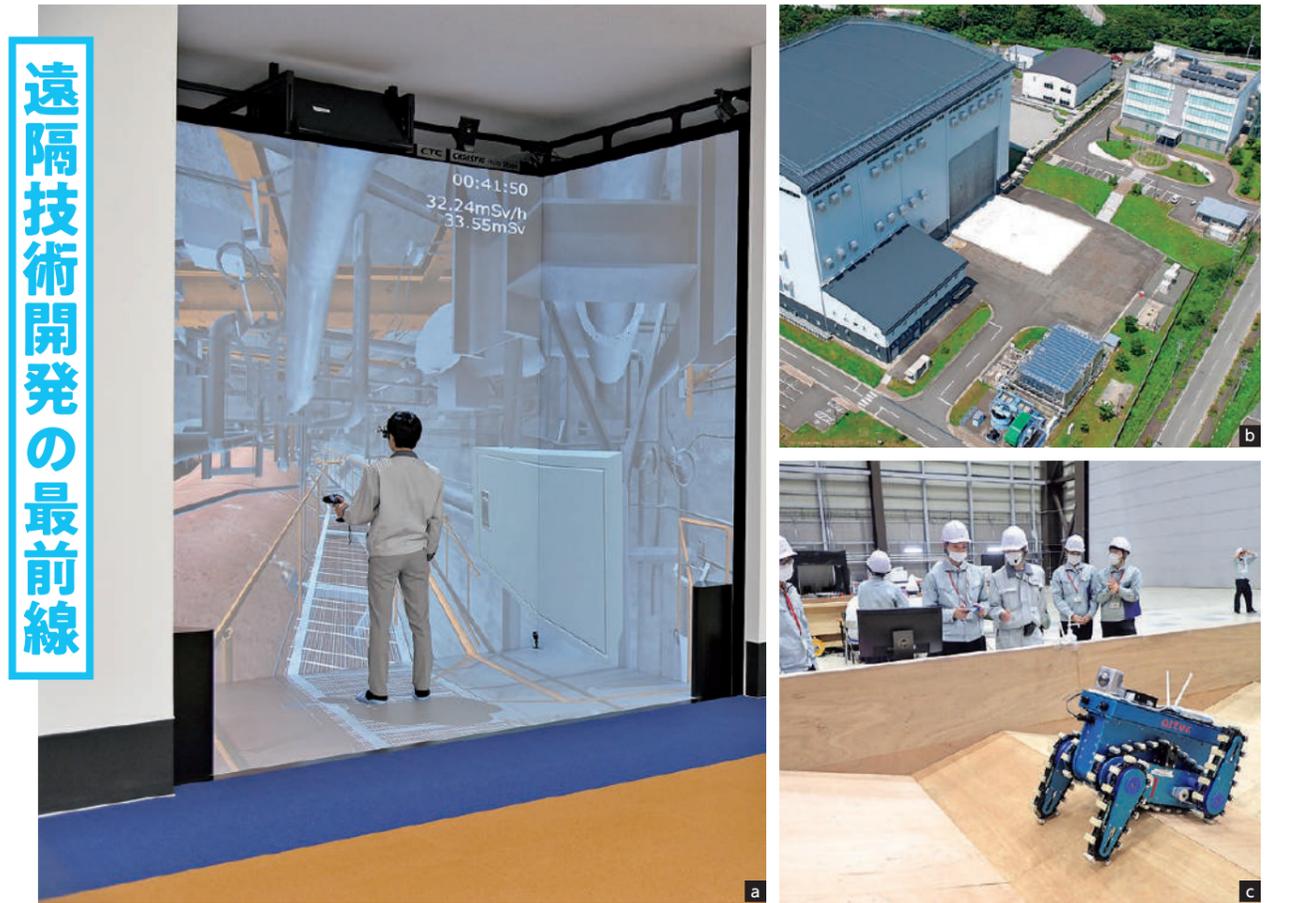
震災以降休止していたニツ沼総合公園にあるフラワーセンター内の園芸ハウスを亜熱帯に近い環境にし、国産熱帯フルーツ栽培を行っています。町の新たな特産品として国産バナナ「綺麗」を開発。農業と観光の再生のため、今後もさらなる特産品を生み出すことを目指しています。



〒広野町下北迫大谷地原57-1 園(株)広野町振興公社 0240-23-7704

## 9 日本原子力 研究開発機構 楢葉遠隔技術開発センター (NARREC)

写真提供:日本原子力研究開発機構



遠隔技術開発の最前線

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉を推進するために遠隔操作機器の開発・実証実験を行う供用施設。原子炉建屋内の一部を再現したVR体験や遠隔ロボットの操作体験、試験設備の見学も行うことができます。

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業を進めるための技術開発と実証実験を行う施設。廃炉作業の計画作成・作業訓練に活用可能なバーチャルリアリティシステムなどを備えた研究管理棟と、ロボットの試験設備を有した試験棟で構成されており、外部利用者による廃炉に向けたさまざまな実規模模擬(モックアップ)試験が行われています。遠隔技術の実証試験に必要な環境を提供するとともに、情報発信も行うことで、遠隔技術開発の中核拠点となることを目指してつくられました。

a.正面、右、左、床面の4面スクリーンで立体映像を体験できるバーチャルリアリティ(VR)システム。b.施設全体図。c.ロボット等の操作体験(有料)  
〒楢葉町山田岡仲丸1-22 園国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 福島廃炉安全工学研究所 楢葉遠隔技術開発センター 0240-26-1040

農業を地域産業の中心にさつまいもで持続可能な社会へ

### 10 株式会社福島しろはとファーム

株式会社しろはとファームでは40ha以上の敷地でサツマイモを栽培。震災後、放棄された畑作を開墾して新たな営農モデル・農地の確立を目指しています。さらに町や企業と連携して、貯蔵設備や加工施設を造成。農業の再生と地域雇用の促進に働きかけています。  
※視察の受入時期はお問い合わせください。



〒楢葉町前原浜城1 園(株)福島しろはとファーム fukushimafarmer@shirohato.com

町民の想いが詰まったみんなのお家

### 11 みんなの交流館 ならはCANvas

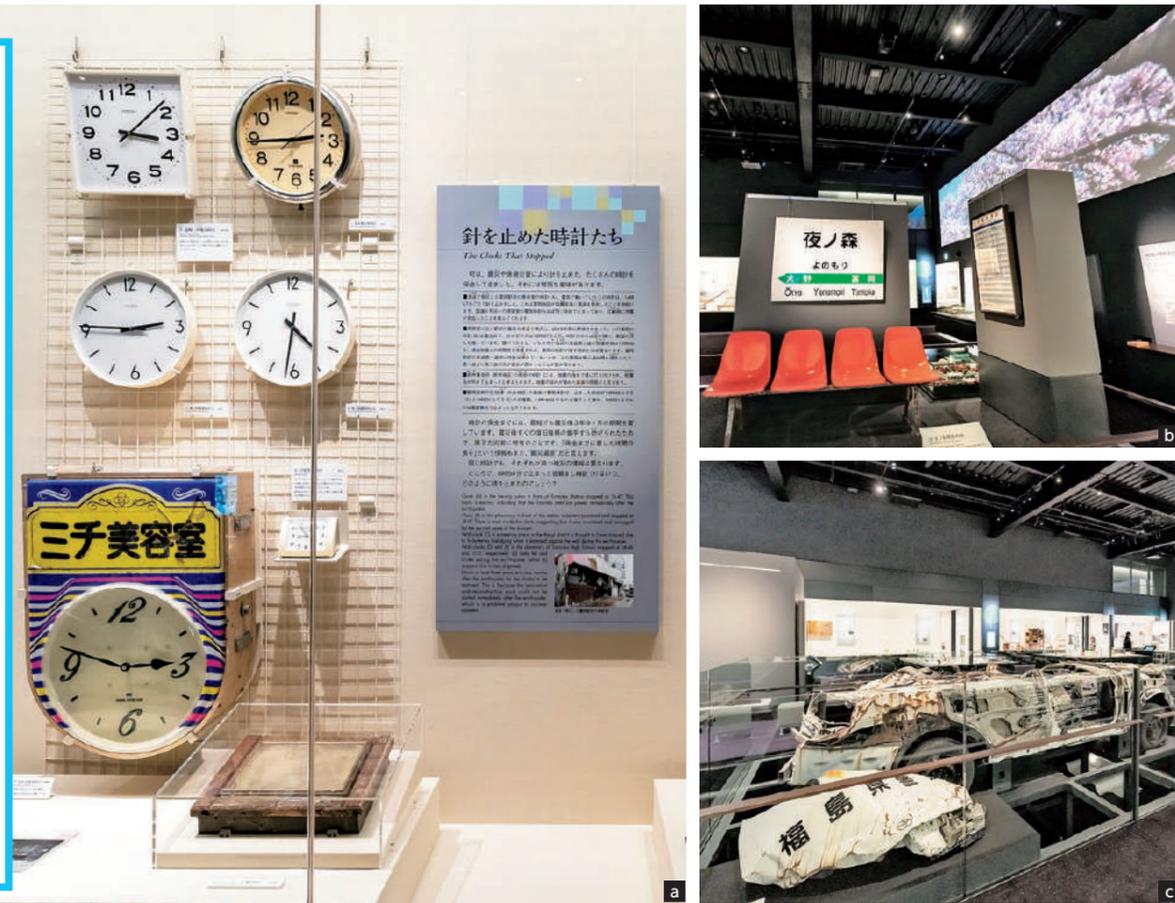
楢葉町の中心部にあるコンパクトタウン「笑ふるタウンならは」内にある交流施設で、町民ワークショップで語られた想いをもとに設計されました。楢葉町民はもちろん、地域や世代を超えて愛されてほしいという願いが込められています。出会い・交流・つながり・発見・挑戦生まれる“こころの復興”を目指す施設です。



〒楢葉町大字北田字中溝260 園(一社)ならはみらい 0240-25-5670

# 12 とみおかアーカイブ・ミュージアム

長い歴史の中の「あの日」を残す



「複合災害を地域の歴史に位置づける」をテーマに、東日本大震災と原子力災害により突然奪われた日常を、生活者の目線から伝えています。生じた震災遺産とともに、「あの日」を境に起きた町の変化を知ることができます。

情報発信を中心としたタウンギャラリーに、震災遺産と原子力災害の経験・教訓を伝える展示室、およそ5万点にも及ぶ資料を保管する収蔵庫と、館内は大きく3つのエリアに分かれています。町民の生活や地域にまつわる資料と震災により生じた遺産を展示することにより、突然奪われた「当たり前」の日常や「あの日」を境に起こった町の変化を伝え、自然災害や原子力災害の経験を未来に継承することを目的としています。事前に希望すれば展示解説が受けられます。

a. 震災や津波のほか、原子力災害による避難など、さまざまな理由により針を止めた時計を展示。b. 2019年に解体した「JR夜ノ森駅」の一部を再現。c. 避難誘導中の2名の警察官が犠牲になった被災パトカー

〒富岡町本岡王塚760-1 岡とみおかアーカイブ・ミュージアム 0240-25-8644

# 16 福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島

福島の未来を考える

環境の視点から



震災・原子力災害の概要、放射線の正しい知識、これからの福島における環境の未来について学ぶことができます。

愛称は「コミュタン福島」。放射線や環境を身近な視点から理解するため、福島県が設置した施設です。環境回復への意識を深めてもらうため、模型や映像、グラフィック等により、震災と原子力災害、放射線や福島の環境の現状について展示しているほか、360度全球型シアターやホールなども備えています。コミュタン福島で得た学びや、体験から得た知識、深めた意識などを共有し、福島の未来を考え、行動するきっかけとすることが目的です。

a. 東京電力福島第一原子力発電所を再現したジオラマ。b. 原発事故による放射性物質の拡散や環境回復に向けたふくしまの歩み、地球温暖化などの環境問題について課題を共有。c. 放射線の飛跡を見ることができる「霧箱」

〒福島県田代町深作10-2(田村西部工業団地内) 福島県環境創造センター交流棟 コミュタン福島 0247-61-5721

自然エネルギーが町に光をもたらす

## 13 富岡復興メガソーラー・SAKURA

震災と複合災害の影響で増えた遊休農地を活用し、約11万枚の太陽光パネルが設置された太陽光発電所。売電収入の一部を地域復興に役立てています。

〒富岡町大字上手岡字大石原(下千里地内)  
岡福島発電(株) 浜通り事務所 0240-23-5154



事故当時の状況や廃炉事業について公開

## 14 東京電力 廃炉資料館

東京電力の情報発信施設。映像やジオラマの展示により原子力事故の記憶と記録を残すとともに、今後も続く廃炉の進捗状況について学ぶことができます。

〒富岡町中央三丁目58番地 岡東京電力 廃炉資料館 0120-502-957



町の象徴で町民の誇りである満開の桜並木

## 15 夜の森地区

令和5年4月に避難指示の解除が実現。令和6年には震災後初めて、実に14年ぶりに夜の森公園をメイン会場として桜まつりが開催されました。

〒富岡町夜の森 岡富岡町 0240-22-2111(代)



福島県の農業の未来を支える拠点

## 17 福島県農業総合センター

県の農業振興拠点として、農業に関する技術開発やイネなどの品種開発に加え、震災以後は農林水産物の放射線モニタリング検査も行っています。また、施設の視察見学を受け入れており、図書室の利用もできます。



〒郡山市日和田町高倉字下中道116 岡福島県農業総合センター 024-958-1700

世界最先端の再生可能エネルギーに関する研究拠点

## 18 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所(FREA)

「世界に開かれた再生可能エネルギーの研究開発の推進」と「新しい産業の集積を通じた復興への貢献」をミッションとし、2014年4月に開所した産業技術総合研究所の研究開発拠点。再生可能エネルギーに関する最先端の研究開発や人材育成などに取り組んでいます。



〒郡山市待池台2-2-9  
岡国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 024-963-1805

## 19 中間貯蔵事業情報センター

地域の発信拠点  
中間貯蔵施設や



a.中間貯蔵事業情報センター(画像はイメージです)  
b.中間貯蔵事業の流れを説明(写真は中間貯蔵工事情報センター)  
〒大熊町大字下野上字大野116番5  
大熊町産業交流施設 CREVAおおくま1階  
☎中間貯蔵事業情報センター 0240-25-8377

2025年3月15日に中間貯蔵事業や福島の復興に向けた環境省の取り組みを発信する「中間貯蔵事業情報センター」が開館します。事業の進捗に関する展示や中間貯蔵施設にいるような疑似体験が出来るバーチャルシアター、土地を提供した大熊町・双葉町の思いなどを発信します。

※国道6号沿いの「中間貯蔵工事情報センター」は同日閉館予定です。

## 20 中間貯蔵施設

県外最終処分を学ぶ  
除去土壌の再生利用や



a.高台からの見学風景  
b.土壌貯蔵施設での放射線の測定体験  
☎中間貯蔵事業情報センター 0240-25-8377

除染により発生した土壌等を最終処分までの間、安全かつ集中的に貯蔵するための「中間貯蔵施設」の見学が可能です。施設内の高台からは土壌貯蔵施設の一部や東京電力福島第一原子力発電所を見ることができます。

## 22 特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま

体験しながら学べる  
埋立処分事業について



a.タブレットを使って処分施設の様子を詳しく学べる。  
b.隣接するモニタリングフィールドで、空間線量率の測定体験ができる。  
〒富岡町大字上郡山字太田526-7  
☎特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま 0240-23-7781

放射性物質に汚染された廃棄物等の埋立処分について学べる体験型の情報館。埋立処分事業の概要や必要性、安全対策、進捗状況などについて、「見て」「触れて」学ぶことができます。ほかにも見学だけでなく、埋立処分技術や放射線の基礎知識などが学べるさまざまな参加型イベントを実施しています。

## 23 福島ロボットテストフィールド

福島の未来をつくる  
ロボットの開発拠点



a.ドローン等での実験にも対応が可能。b.トンネルや橋梁、市街地、道路などが敷地内に整備され、災害環境等を再現できる。  
〒南相馬市原町区萱浜 新赤沼83(南相馬市復興工業団地内) ☎(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構 0244-26-3431

浜通りの産業回復のための国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」により整備された、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点。南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地内に、インフラや災害現場など実際の使用環境を再現し、ロボットの性能評価や操縦訓練等を行っています。

「あの日」のままの風景が、残るエリア

### 21 国道6号

浜通りを南北に縦断する国道6号は地域の主要道路のひとつです。帰還困難区域内の家屋や店舗の入り口には、10年以上バリケードが設置され、時が止まったような光景が広がっていました。現在も朽ちた建物が残る一方、徐々に建物の解体が進み、新しい町並みへと再生が始まっています。

☎国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所 0246-23-2211(代)



※バリケードは現在撤去されています。

水素社会実現に向けた先端企業等が集結

### 24 浪江町棚塩産業団地(海光の丘)

世界最大級の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド」をはじめとした水素活用関連企業のほか、国内最大規模の集成材製造施設「福島高度集成材センター」など、先端企業が集結しています。「海光の丘」からは産業団地と太平洋が一望でき、海から昇る朝日も楽しめます。



☎浪江町大字棚塩(棚塩産業団地内) ☎浪江町産業振興課 0240-34-0248

東北唯一の移動式水素ステーション

### 25 ふくしまハイドロサプライ 水素ステーション ナミエナジー

福島水素研究フィールドで製造された、再生可能エネルギー主体の水素を活用する移動式水素ステーション「ナミエナジー」。トラックの荷台に水素充填装置を積んでおり、燃料電池車(FCV)3台を満タンにできる充填能力があります。



☎浪江町大字棚塩字大原5-10 ☎ふくしまハイドロサプライ(株)024-563-3144

【見る(施設)】— 最先端の技術

世界に誇る特許を持った燃糸技術

26 浅野燃糸 フタバスーパーゼロミル



約5年の歳月を費やして完成させた、特許技術燃糸「SUPER ZERO®」の生産拠点。大規模工場で燃れた糸は、国内はもちろん世界へ輸出されています。工場のほかショップやカフェも併設しており交流人口拡大を担う拠点となっています。\*世界初の特殊燃糸工法で開発した糸。繊維製品に吸水性・速乾性等の機能を付加する。

〒双葉町中野館ノ内1-1 浅野燃糸(株)双葉事業所 0240-23-7648

日本初、お米から作られるプラスチック

27 株式会社ライスレジン



2021年、浪江町に製造工場を建設するため、相馬ガスグループとバイオマスレジングループの合併事業としてスタート。廃棄されるお米を活用したプラスチック樹脂原料「ライスレジン」の開発・製造を行っています。町内の耕作放棄地で作付けされた新市場開拓米も原材料として使用しています。

〒浪江町棚塩北金ヶ森1-1 株式会社ライスレジン 0240-23-5107

【見る(施設)】— 農業の新しいビジネスモデル

スマート農業を駆使して、ふるさとを活性化

28 紅梅夢ファーム



一時は帰還困難区域に指定された南相馬市小高区の農業再生に取り組んでいます。平均年齢20代の担い手を中心に、スマート農業による徹底した品質管理で、信頼される商品を提供しています。

〒南相馬市小高区姥沢字藤沼160 株式会社紅梅夢ファーム 0244-44-6200

ICTを活用した最先端技術で農業復興

29 ネクサスファームおおくま



大熊町に2018年に設立。栽培面積2.2haの太陽光利用型植物工場いちごの栽培・販売をしています。2019年にはGLOBALG.A.P.の認証も取得し農業の再生に挑戦しています。

〒大熊町大字大川原字西平2127 株式会社ネクサスファームおおくま 0240-23-7671

ホップとビールで「人」「もの」「こと」の循環をつくる

30 ホップジャパン



田村市内の委託農家で栽培されたホップを使用する都路町のブルワリー。1次産業から3次産業を一貫して行うことで6次化に展開し、通常廃棄される麦芽カス等は飼・肥料として自然に戻す0次化に取り組んでいます。

〒田村市都路町岩井沢北185-6(グリーンパーク都路内) 株式会社ホップジャパン 0247-61-5330

川内村の賑わい創出の起点

31 かわうちワイナリー



震災復興、新たな農業への挑戦、地方創生の取り組みの一環として、村内で収穫するブドウからワインを生産することを目指して発足。2021年春には村内産のブドウを活用したワインが完成しました。

〒川内村上川内大平2-1 かわうちワイン(株) 0240-25-8868

【見る(施設)】— 震災の教訓を伝える

記憶の传承、想いが集まる場所

32 相馬市伝承鎮魂祈念館・慰霊碑



津波により被災した相馬市の震災前の風景を後世に伝え、来訪者の交流を図ることを目的として建設された施設で、犠牲者への追悼の意が込められています。震災関連の写真や震災当時の津波の映像などを見ることができます。

〒相馬市原釜字大津270 相馬市伝承鎮魂祈念館 0244-32-1366

いわき市の震災経験を将来にわたり発信

33 いわき震災伝承みらい館



震災関連の資料や映像、パネル展示、語り部の講話などを通じ、震災の記憶や教訓を確実に後世へと伝えていくための施設。復興に向けた取り組みを伝えることや、災害に対する危機意識や防災意識の向上なども目的としています。

〒いわき市薄磯3-11 圓いわき震災伝承みらい館 0246-38-4894

【体験】

復活の浜焼き体験

34 松川浦ガイドの会



東日本大震災で途絶えていた松川浦名物の「浜焼き」が、震災から10年経ち松川浦ガイドの会(旅館の若旦那)の尽力により復活しました。若旦那から震災前の「浜焼き」について話を聞き、カレイやイカを自分で串に刺して食べることができます。(※夜は対象の宿に宿泊のお客様のみが体験できるプログラムです。)(※体験付き昼食につきましては要相談)

〒相馬市中村字北町55-1 圓相馬市観光協会(相馬市千客万来館) 0244-35-3300

大堀相馬焼体験

35 大堀相馬焼協同組合



浪江町が誇る地場産品「大堀相馬焼」の陶芸体験。手びねりでの形作りや絵付けに挑戦できます。焼きあがる時の、大堀相馬焼特有の「青ひび」が入る瞬間に鳴る美しい貫入音も魅力のひとつです(電話にて要予約)。

〒浪江町大字幾世橋字知命寺40 圓道の駅なみえ「なみえの技・なりわい館」大堀相馬焼コーナー 0240-35-4917

ワイン用ブドウの苗植え・作業体験

36 とみおかワイナリー



海を一望できるワイン畑で、ブドウの苗植えや剪定、圃場の除草作業を体験できます。ワインを通して人々の交流や新しい産業が生まれ、着実に前進する地域の息吹を感じることができます。企業CSR活動としての活用も可能です。(時期や天候によりプログラムに変動あり。)

〒富岡町小浜438-1 圓とみおかワイナリー 0240-23-7606

トマト収穫体験

37 ワンダーファーム



大型ハウスで1年中トマト狩り体験を楽しめます。なかなか入る機会のないトマト栽培ハウスに入り、実際にトマトを採ってみましょう。当社規定の袋がいっぱいになるまでトマト狩りができます。採れたトマトのおいしさを体感してみましょう。

〒いわき市四倉町中島字広町1 株式会社ワンダーファーム 0246-38-8851

# 「聞く」復興に向け果敢にチャレンジする人々

震災・津波、原子力災害、風評被害……未曾有の困難の中で、それでもなお復興に向け果敢にチャレンジする人々が、福島にはたくさんいます。そうした人々との対話から、多くの刺激や気づきを得ることができます。

考えてみませんか？

福島で、一緒に



住民

防災・減災

地域づくり

ここは世界史の最先端

我々は証言者

現地にしかない  
温度感を大切に



## 亡くならなくてもいい命を救いたい

「亡くならなくていい命をひとりでも多く救いたい。」その想いが僕をずっと突き動かしています。福島が経験した複合災害は、世界中のどこでもこれまで全く経験していないこと。今僕らがいるのは世界史の最先端。だから我々は証言者なんです。

東日本大震災の教訓を活かさなければ、あの時亡くなった方々に申し訳が立たない。これから起こる災害はもっと大きいという予測もあるし、我々の体験は必ず活かせるはずで、それは経験者がやるべきこと。僕が活動する意義はそこにあって、自分はその教訓と経験を伝えるためのスピーカーだと考えています。この目で見たことを伝えたいし、その目で他の地域を見たらどう感じるのか、自分の視界を伝えたい。福島にいるから見ているものを、どれだけ等身大で伝えていけるか。まずは僕のフィルターを見て、福島のことをわかってほしい。そうしているうちに、だんだん自分のフィルターができていくのだと思います。

「故郷」とは単なる場所ではなく、人と人とのつながりがあるところです。だからもっと大事にしてほしい。人は独りでは生きられない。震災のせいではなく、震災のおかげで僕らは多くのことに気づくことができました。自分に同じことが起きたらどうするのか。当事者性を持つことが本当に重要。今の福島で大事だとされていることは、来てくれた人の町でも大事だということ伝えたいと思っています。

福島大学 人間発達文化学類 特任教授  
一般社団法人ふくしま連携復興センター 代表理事 **天野 和彦さん**

震災時東北最大級の避難先であった、郡山市の「ビッグパレットふくしま」避難所の運営責任者。避難所での支援活動の実体験を踏まえ、避難所運営シミュレーション「さすけなぶる」を開発。今後起こりうると思われる災害に備え、震災や福島の教訓を発信している。そのほか被災者の生活再建、コミュニティ形成のための支援活動などにも取り組んでいる。

## 人間の感情や人間らしさを伝えていく

私が活動を続ける上で最も大事にしていることは、現地にいないとわからない「温度感」を伝えること。感情や友情、未来を信じる気持ちなど、目に見えないもの、それに直にふれられる機会はなかなかありません。

ホープツーリズムは入口であり、きっかけです。葛尾村に来てくれた人、福島に興味を持ってくれた人と直接会えるということは、たとえ短い時間でも、その後の可能性を大きく広げてくれるので、とても大切にしています。「また来たい」と思ってくれた時に、来られる場所を作っておく。そのために少しずつ村との縁をつないでいます。

ホープツーリズムで葛尾村を訪れた子が、大学生になってからインターンでもう一度来てくれたり、定期的に村に遊びに来てくれるようになったりと、具体的に行動に移してくれる人も増えてきました。まずは知識や情報よりも感情の動きを大切に、カッコいい言葉ではなく人間らしさを伝えていくことを心がけています。

福島県、そして葛尾村と同じ経験をした場所はほかにはありません。持続可能な社会を目指す上での良い事例がたくさんあるし、日本の未来を考えられる場所ではないかと感じています。震災を通して覚えた憤りの先にある出口や、地域がどう生き残っていくかについて、じっくり考えてみてほしいと思います。そして、その先に続く地域の未来を、少しでも心に留めるきっかけになってくれたらうれしいです。

一般社団法人葛力創造舎 代表理事 **下枝 浩徳さん**

震災後、故郷である葛尾村にUターンし、「一般社団法人葛力創造舎」を設立。葛尾村のコミュニティの崩壊を解消するため、地域コミュニティのサポートや地域の活力を支える人材の育成に取り組んでいる。また、地域の資源を活用した事業を起こすなど、事業開発を通じた地域づくりにも力を入れており、人と人との結びつきを大切に活動している。

## 考える入口、考えるきっかけを作りたい

我々の役割は、体験したことを語るだけではなく、富岡町のような地域をどうするのかということ問いかけることだと思っています。町が複合災害から復興していくところまでは語り続けなければならない。人間が死んだとしても言葉は残るし、これまでも言葉で紡いできた歴史があります。だから特に若い世代に伝えていきたい。私たちが活動する意義はそこにあると考えています。

被災した人たちが立ち直っていく様子は、私たちが大事にすべきことや当たり前の日常の大切さを改めて気づかせてくれました。人が壊したものは人が作り直すしかない。そう思えたとき、自分が生きている意味や、使命感のようなものを感じました。そして、最後まで富岡町と一緒に生きようと心に決めました。

失われたものがもう一度再生していくところに自分もいたいし、見ていたい。そして自分も力になりたい。町をこれからどうするか、そんな夢のようなことが語れる場所はほかにはありません。都会では夢物語だと言われるようなことも、富岡町なら1つの意見になります。

「語り人(かたりべ)」は話すだけではなく、一緒に地元のことを考えることが重要。被災地のことを考えながら、じゃあ自分のところではどうしたらいいのか、地元のこと少し考えてみよう、と。ここ富岡町、そして福島県は、課題を見つけて持って帰って、考える、解決するという、最高のフィールドだと思います。

NPO法人 富岡町3・11を語る会 代表

**青木 淑子さん**

震災数年前に県立富岡高校校長を務める。震災後県内最大の避難先であった、郡山市の「ビッグパレットふくしま」でボランティアに携わり、2013年より語り人(かたりべ)として活動を開始。2016年に「NPO法人富岡町3・11を語る会」を設立し、自分たちの体験を自分たちの言葉で語ることで、「富岡町の震災の実際と現状」、「被災地福島の真実」を世に伝え続けている。

# 「聞く」復興に向け果敢にチャレンジする人々

福島には各分野で復興に向け果敢にチャレンジする人々がたくさんいます。対話を通して、多様な視点から震災・原子力災害の状況、復興に向けた取り組みや課題について学ぶことができます。

住民

## 「あの日」起こったこと、住民の率直な想いを伝える

浪江まち物語つたえ隊



仮設住宅で暮らしていた浪江町民2名で結成。地域に伝わる民話・昔話をはじめ、震災・原子力災害の実話をもとに紙芝居やアニメーションを制作し、全国各地で作品の上演会や上映会を実施。ふるさとの記憶や震災・原子力災害の記憶・教訓を伝え続けています。

教育・人材育成

## 「一歩目」を踏み出す人材を育成～「憧れの連鎖」が未来を拓く～

一般社団法人あすびと福島 代表理事

はんがい えいじゅ  
半谷 栄寿 さん



元東京電力執行役員、南相馬市小高区出身。震災後に小学生～大学生、若い社会人の成長の場づくりを開始。新たな価値創出に一歩を踏み出す若者が憧れの対象となり、後輩が続く「憧れの連鎖」が生まれることを目指し、福島創生を担う次世代育成に挑戦しています。

防災・減災

## 震災の経験は防災にとどまらない

SSK行政書士事務所 代表

ささき くにひろ  
佐々木 邦浩 さん



震災時は避難所の運営から仮設住宅建設、富岡町災害復興計画(第二次)の策定に奔走。自らが経験した震災の教訓を未来につなげる取組みを行っています。「避難所ワークショップ」では、避難所での共同生活を舞台に、災害が発生する前に取り組むべき行動を考えます。

事業所

## 双葉町復興のためにこれからの未来を共に歩む

浅野燃糸株式会社  
双葉事業所



浅野燃糸株式会社(本社岐阜県)の社長浅野雅己氏の「福島のために何かをしたい」という一念から、双葉町中野地区に新たに燃糸工場を構え、生産体制を強化。双葉町で働くことを決めた若者たちから双葉町への復興の想いを聞くことができます。

地域づくり

## 広がる交流の輪 この町の変化を楽しむ

浪江町商工会 青年部

ぜんじ あきひろ  
前司 昭博 さん



「なみえ焼そば」の普及活動や、ご当地ヒーロー企画等の地域の活気づくりに尽力。生産者や企業等の町内ネットワークを構築し、住民主体の地域づくりの輪を広げています。本業では、「水素のまち浪江町」で、水素ステーションを運営するなど、脱炭素推進に力を入れています。

教育・人材育成

## ローカルに根差しながらグローバルな視点で地域を歩む

NPO法人ハッピーロードネット 理事長

にしもと ゆみこ  
西本 由美子 さん



復興を担う人材育成や地域再生に向け、高校生等と一緒に国道6号に桜の木を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」や世界と日本のエネルギー問題の課題について、エネルギー問題の先進国を訪問し、国際的な視点に立った活動を続け子どもたちを知ってもらう機会を提供しています。

農業

## 新しいハブとなり地域農業を支える

株式会社ワンダーファーム 代表取締役

もとき ひろし  
元木 寛 さん



農と食の魅力体験できるワンダー(wonder=驚嘆すべき)なファーム(farm=農場)を目指して事業設立。トマトの出荷および、農業を身近に感じる体験型テーマパークの運営によって、農作物の付加価値向上、地域の活性化だけでなく、農業の担い手育成に取り組んでいます。

原発・廃炉

## 福島の復興と廃炉へ向けて正しい情報を分かりやすく発信

内閣府 廃炉・汚染水・処理水対策現地事務所 参事官

きの まさと  
木野 正登 さん



震災から約14年間、福島の廃炉と復興に尽力。廃炉・処理水、復興、エネルギー政策等、福島のあらゆる課題に精通し、科学的根拠に基づいた正しい情報を分かりやすく説明してくれます。また、県内各地で地元住民の疑問に答えるなど、対話を通して福島の復興を支えています。

医療・福祉

## 震災を通してリーダーの素質を考える

南相馬市立総合病院 院長

おいかわ ともよし  
及川 友好 さん



震災当時、東京電力福島第一原子力発電所から23kmに位置する中核病院で副院長として現場を指揮。原発の状況が深刻化する中、「病院を、患者を、スタッフをどうするべきか…」自らが下した決断や葛藤を題材にリーダーのあり方について語ります。

エネルギー

## 持続可能な農業をエネルギー分野から考える

一般社団法人えこえね南相馬研究機構 理事長

たかはし そうへい  
高橋 荘平 さん



地域再生のため、地元農家と共同し、作物を作っている農地の上に太陽光パネルを並べて発電する「ソーラーシェアリング」による半農半エネのモデルを推進。売電の副収入により農家の収入安定化を図り、持続可能な農業とエネルギーの地産地消を目指しています。

事業所

## 福島の光を探す仕事地域のワクワクを追求

「轟(ノーマ)の谷」共同代表・  
一般社団法人NoMAラボ代表理事

たかはし だいじゅ  
高橋 大就 さん



東北の食産業を支援する「東の食の会」では、数々のヒット商品を生み出す「NoMAラボ」では「なみえアートプロジェクト」や「なみえ謎解きアドベンチャー」を手がけました。また、人と馬と自然が共生する「轟(ノーマ)の谷」では、「ノーマ・ホースヴィレッジ」を開園しました。

原発・廃炉

## 東京電力福島第一原子力発電所の今を知る

東京電力ホールディングス株式会社  
福島復興本社



福島復興本社の職員から東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業の進捗状況、復興に向けた取り組みについて直接聞くことができます。また、一定の条件を満たす場合は、職員のアテンド付きで、東京電力福島第一原子力発電所構内を視察することができます。

# 「聞く」学校交流

福島県内の学校との交流や、高校生との共同ツアーなどを通じて、福島県の高校生たちと交流することも貴重な経験です。復興に向けさまざまな活動に取り組む福島県の高中生から直接、同世代の想いを聞くことができます。



福島の高中生との交流で同世代の「想い」を聞く

## 同世代の想いを聞く

震災当時の様子やその後の生活、復興に向けた想いなど、同世代ならではの感覚で語り合います。



## 一緒にワークショップ

ともに考え、意見を交換。福島で暮らし、学ぶ同世代からは、多くの気づきを得ることができます。



## 福島の高中生と一緒にツアー



福島の高中生とともにツアーを実施することで、県内と県外の視点の違いに気づき、考え方や知識を共有できます。同世代の震災経験談はもちろん、原子力災害や復興への想いについて聞き、お互いを刺激し合います。

# スタンダードコース ~福島の復興を知る基本コース~

ホープツーリズムの基本コンセプト（見る・聞く・考える）を踏まえながら、学校行事や、一般団体のツアーにも対応可能なプログラムです。2020年9月にオープンした東日本大震災・原子力災害伝承館を起点に、震災・原子力災害の概要、復興の現状・課題に関する基礎知識等を学習します。バスにフィールドパートナーが同乗し、双葉町・浪江町のフィールドワークを行うスタンダードなコースです。



1 見る

## 東日本大震災・原子力災害伝承館

双葉町  
9:05~(60分~)

毎時00分/15分/30分/45分に上映しているプロローグシアターを視聴。その後展示ブースを見学できます。

※初回は9:05からプロローグシアターがスタートします。

2 見る

## 双葉町・浪江町フィールドワーク

双葉町・浪江町  
10:30~(90分~)

バス毎にフィールドパートナーが同乗し、ツアーのアテンドを行います。学びのテーマにあわせて請戸漁港や棚塩産業団地もご案内します。

- JR双葉駅 ● 震災遺構 請戸小学校 ● 浪江町立大平山霊園
- (● 請戸漁港) (● 棚塩産業団地)

3 食事聞く

## 双葉町産業交流センター

双葉町  
12:00~  
13:00~(60分~)

団体旅行の昼食は、周辺の会議室を利用してお弁当を食べることが主です。

さまざまなテーマからご希望にあわせて対話のアレンジが可能です。\*対話会場は都度手配が必要です。

- 【対話のテーマ】
- 医療・福祉  事業者・起業家  地域づくり  農林水産業
  - エネルギー  教育・人材育成  住民  保育
  - 原発・廃炉  防災・減災  新産業(イノベーション・コスト構想)
  - 報道  伝統  環境回復・除染・中間貯蔵等
  - 放射線  観光・交流  その他

# オーダーメイドコース ~目的や要望に合わせてアレンジ可能なコース~

オーダーメイドコースは、スタンダードコースを体験した後や、コース別の選択学習、企業研修等ツアーの目的やご要望に合わせて数時間～3日間の行程作成が可能です。

「主体的・対話的で深い学び」を実現  
一連の流れにより、  
「見る」「聞く」「考える」の



## ホープツーリズム公式アンバサダーについて

福島県は、ホープツーリズムの教育的価値や魅力を広く伝え、多くの方々にご参加いただくことを目的として、2024年11月に4名の公式アンバサダーを委嘱しました。

福島県と福島県観光物産交流協会では、4名のアンバサダーの皆さんと共に、ホープツーリズムの学びの質の磨き上げと、その魅力を県内外に広く発信することにより、本県への誘客に取り組んでおります。

### 教育分野



福島大学  
准教授  
**前川 直哉 氏**

灘高校在学時に阪神・淡路大震災で被災し、その後同校の教師として勤務。東日本大震災後、生徒と「東北訪問宿」を実施し、被災地支援に取り組んだ。2014年3月に同校を退職し、福島県へ移住。ホープツーリズムの開始当初から事業の推進に尽力いただいている。

### 教育分野



灘中学校・高等学校  
教諭  
**池田 拓也 氏**

福島県を、社会課題を通して過去・現在・未来を考えることができる学びの場とし、同校での「ふくしま学宿」以外に、「チームHYOGO(兵庫県内複数校でふくしま学宿を実施)」も結成。モットーである「高校生と社会をつなぐ活動」を兵庫県で展開しており、その活動は全国へ広がっている。

### 企業分野



浅野燃糸(株)  
代表取締役社長  
**浅野 雅己 氏**

本社は岐阜県。福島大学出身。経済産業省の「繊維の将来を考える会」の活動時に双葉町と縁が生まれ、2023年4月に燃糸工場・ショップ・カフェの複合施設「フタバスーパーゼロミル」をオープン。浜通りの復興をけん引しており、見学者の受入も積極的に行っている。

### メディア分野



(株)ON-WORK  
代表 映画監督  
**古波津 陽 氏**

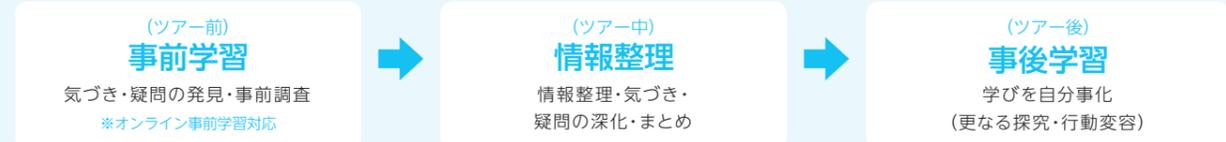
東日本大震災後の福島について思いを語る映画『1/10 Fukushimaをきいてみる』を2013年から毎年1作品制作。全国上映を通じ福島の現状を発信し、国内外で高い評価を受ける。2024年3月と2025年1月には、上映付きホープツーリズムツアーを実施するなど、参加者に福島の今を伝えている。

## インフォメーション

### ●学習教材のご案内

#### ツアー前の「事前学習」、ツアー中の「情報整理」、ツアー後の「事後学習」をサポートする学習教材

震災・原発事故当時の状況、現在までの復興のあゆみ、現状・課題の全体像を学ぶことができる「福島のある日からいま(教科書)」と事前学習・ツアー中・事後学習の各場面で学びを整理する「学びノート」を活用することで、生徒一人ひとりの主体的・創造的な学びをサポートします。また、ホープツーリズムを実施する団体様を対象に、ご希望にあわせてフィールドパートナーとのオンライン事前学習を行っています。震災・原子力災害の基礎知識(福島の概要、被害状況、復旧状況の推移等)を解説します。

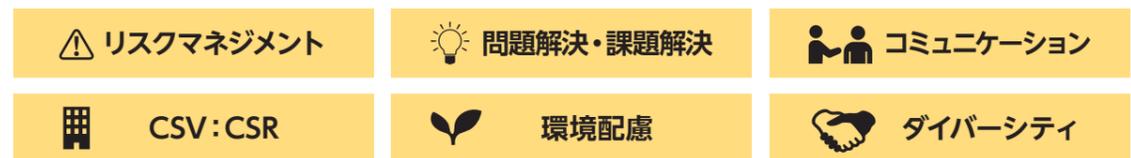


## ●(企業・行政機関・団体等)人材育成研修向けガイドブックのご案内

震災・原子力災害の教訓、復興への挑戦から学ぶ  
持続可能な企業・組織のあり方

## なぜ「福島」で「人材育成研修」なのか

福島は社会問題の先進地であり、未曾有の大災害の中で、その解決に尽力している企業が多数存在します。そのノウハウや戦略は、今後の日本企業が持続的に存続し続ける新しいモデルといえます。「地域創生」と「企業と人の成長」はつながっており、創生に向かう福島の企業からは、繁栄や成長のヒントが得られると言えます。



## Goal → 未来志向で持続的な企業運営視点と社会人意識を醸成

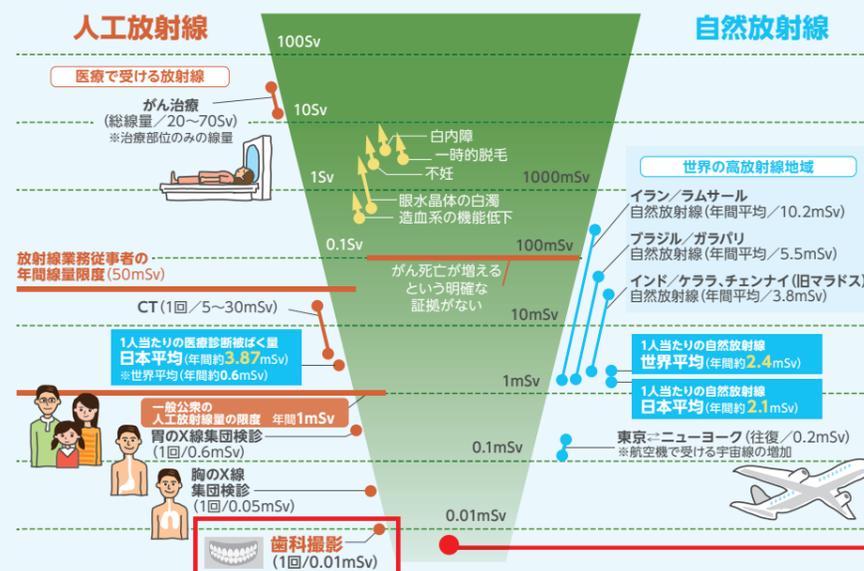
未曾有の大災害に直面した福島では、人材や技能の奪い合いではなく、補い合うことで前進する、連携型の運営構造が成り立っています。ホープツーリズムの人材育成研修は、持続可能な企業運営のヒントをみつけ、より良い社会を実現する人材の育成を目指します。



※ガイドブックをご希望の方はお問い合わせください。

## ●放射線について

$$1 \text{ mSv} (\text{ミリシーベルト}) = 1000 \text{ } \mu\text{Sv} (\text{マイクロシーベルト})$$



福島県内の大部分は除染や自然減により放射線量が大幅に低下しています。1泊2日のモデルコースで浴びる被ばく線量の合計は、これまでの実績からも概ね歯科用レントゲン撮影1回の半以下となっています。

1泊2日のツアー時の累積線量  
**約0.002mSv**

【注意】1) 数値は有効数字などを考慮した概数。2) 目盛(点線)は対数表示になっており、目盛がひとつ上がる度に10倍となる。  
【参考】(独)放射線医学総合研究所、(公)原子力安全研究協会「新版 生活環境放射線(国民線量の算定)」(2011年)などにより作成

# “きっかけ”は、福島で、みつける

福島の今から伝わる、過去と未来。流れた多くの時間の中にある葛藤と決意。

課題に向き合い、あゆみ続ける人々。

ここには、“希望”を持つ人々がいる。“芽生え”を促す場所がある。

ここでつかんだ学びの種が新しい道を示しこれからの人生の糧となるでしょう。

さあ、“きっかけ”をみつけに、福島へ。



## ホープツーリズムに関する総合窓口

福島県観光物産交流協会では、ホープツーリズムに関するコンテンツの集約、団体様の学びのニーズへの対応、旅行会社様の商品造成・ツアー催行をサポートする現地手配機能を兼ね備えた「総合窓口」を設置しております。

●お問い合わせ先 (ホープツーリズム・教育旅行推進部門)

✉ [hopetourism@tif.ne.jp](mailto:hopetourism@tif.ne.jp)

☎ 024-525-4060

8:30~17:30 (土日祝日、12/29~1/3を除く)



<https://www.hopetourism.jp/>

ホープツーリズム | 🔍

サイト内には、旅行会社様の商品造成やツアー実施に役立つ詳細情報を掲載した専用ページを設けておりますので、ぜひ、ご利用ください。

### ■総合窓口の機能■

- 1 コンテンツ (見学施設、復興に向け果敢にチャレンジする人々、フィールドワーク、食事・宿泊施設等) の情報収集、集約  
→ 情報提供
- 2 広域ツアー、モデルコースの造成  
→ 情報提供
- 3 旅行AGT専用ページによるコンテンツ等の情報提供
- 4 現地手配 (ランドオペレーター) 機能  
【国内手配業務】
- 5 「ホープツーリズム」商標許諾申請

●福島県浜通りを巡る旅のご案内はこちら

東日本大震災から10年以上が経過し、福島県浜通り地域には、美しい自然、伝統文化、グルメ、新たな産業、復興に取り組んでいる人々との出会いが待っています。



▼詳しくはこちら

<https://hopetourism-enjoyplus.jp/>